

第3次総合計画策定に向けた若手職員ワークショップ 実施報告書

資料 2

1 実施目的

西東京市が目指すべき姿（将来像）やまちづくりの方向性、課題解決に向けた取組アイデアなどについての市民意見を把握するため、幅広い世代を対象にワークショップを行った。

2 実施日

令和4年11月8日（火） 午前9時から正午まで

3 場所

西東京市役所田無庁舎 502、503会議室

4 対象及び参加者数

20代、30代の主事、主任級の若手職員を対象に募集を行い、35人が参加。

5 実施内容

総合計画の施策体系に沿ったテーマをグループワークで検討した。5グループに分かれ、テーマごとに、現状と課題の検討を行い、目標を実現する取組アイデアの検討を行った。

(1) 実施プログラム

	時間	プログラム	内容
1部	25分	総合計画の理解	・総合計画の理解、基礎調査の結果周知 ・職員ワークショップの内容説明
2部	70分	ワーク①	・グループに分かれて、テーマごとの現状と課題の整理 ・課題解決に向けた取組みアイデアの検討 ・各テーマの発表と共有
3部	70分	ワーク②	
まとめ	5分	まとめ	・アンケート記載等

(2) 検討テーマ

検討テーマ	関連分野
①子どもがのびのびと過ごすことができ、生きる力を身につけるためには	子ども、教育
②リスクに備え、安全に日々の暮らしを送るためには	防災、防犯
③地域に根差した産業が継承され、地元で働く選択肢があるまちになるためには	産業振興、起業・創業
④豊かな緑や自然を身近に感じられる、環境にやさしい持続可能なまちを実現するためには	みどり、農地、農業、環境
⑤多様な人がつながり、活発な市民活動が展開されるためには	市民活動、地域コミュニティ
⑥地域の中で、不安を感じることなく子育てするためには	子育て支援
⑦誰もが自分らしく、生きがいを持って暮らすためには	高齢者、障がい者、マイノリティ
⑧多様な地域資源を活かし、人が集まり、心の豊かさを感じられるまちになるためには	地域資源、文化・芸術、情報発信
⑨誰もが不便を感じることなく、快適に住み続けられるためには	道路、公共交通、住環境
⑩各計画を策定する際、市民にとってわかりやすい計画にするためには	その他

6 グループワークのまとめ

検討テーマ① 『子どもがのびのびと過ごすことができ、生きる力を身につけるためには』 分野【子ども・教育】

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	のどか、自然豊か アクセスがいい、都心も近い、ベッドタウンとして 児童館 11 館あり、周辺自治体と比べて多い ギガスクール、タブレット一人一台、楽しそう 児童館で他市の方と交流ができる 将来に向けて考える機会・キャリアパスポート 児童館リクエストボックス・子供主体のお祭りをやっている 中学生がリーダーとなって小学生と行事などをしている 児童館では0-18歳利用、縦のつながりができる、コミュニケーションを 培う 学校と児童館の連携、福祉との連携、地域の気になる子供を見守る 民生委員や保護司が地域で見守る活動をしている	(人や地域のつながりがある地域) 子どもの意見をいろいろなところで発表 (中高生プロジェクト等発表の場を作る) 自分のやりたいことを見つけられる機会を作る ・イベントの実施、興味があることを見つけられる機会 ・地域の方が自分のやっていた仕事の経験や知識を話せる機会を作る 課題がある子どもを地域の方も積極的に参加して見守る ・民生委員の方が児童館にきて、受験案内を一緒に考えながら見守りをする
	娯楽が少ない、遊ぶ場所、ショッピングモール 公園が多いけど、水遊びできるところがない 建物が古い、保育園・児童館・学校 道路が整理されていない 中高生が立ち寄れる場所が少ない 児童館の来館者が多いため、箱がせまいところがある 問題を抱えているが表面化しない家庭の支援 非行にはしる児童の防止 コロナに関する制限(発達障害がある子は不安、行事ができない)	

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	自動通話録音機の無料配布 不審者情報（内部・いーなメール）周知 特殊詐欺に関する防災無線（青パトで音声を流しながら） ハザードマップ（年１）更新頻度が高い 消防団員の数の多さ 防災意識が高い・イベントが活発 地理的に恵まれている のどかな雰囲気があるため、体感治安が良い 土砂崩れ警戒区域が比較的少ない	情報に触れる機会を増やすため ・ 人目に付く場所（スーパー等）での注意喚起 ・ 駅にポスターや放送 ・ アスタビジョンに映像放送 ・ 防災無線の活用 ・ LINE の通報機能（若者向け） 電灯の設置 山間部に比べて工事がしやすい
	特殊詐欺が多い 狭い道路で見通しが悪いため、犯罪が起こりやすい ベッタウンのため、日中人が閑散している 自治会活動が活発ではない 消防団員の高齢化	高齢者の街歩きイベント 消防団員の募集活動 消防訓練等への市民参加

検討テーマ③ 『地域に根差した産業が継承され、地元で働く選択肢があるまちになるためには』 分野【産業振興・起業・創業】

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	創業がしやすい環境（支援、場所など） ひばりが丘の商店街は小さい店舗が多くていい雰囲気 継承する事例もある 空き店舗の支援（家賃補助）	・廃業したい人募集！ ⇒①起業したい人と高齢化している商店街をマッチング（技術だけでなく、ノウハウや顧客など） ②若い人を商店街の組織に取り入れる 組織として盛り上げていく きっかけづくり 公園に出店してまつり、設営も地元の企業 活性化している商店街をモデルケースにして、ノウハウを取り入れる 目玉になるフェスみたいなものを実施して、PR する SNS で発信 商店街が魅力的になれば創業したい人も増える ちょうどよさ（住みやすさや創業しやすさなど）を発信する
	空き店舗は増えている 後継者がいなくてうまく継承されない 西東京市のブランドがあまりない PR 力が弱い	

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	・農地が多い ・市民農園、体験農園あり（非常に人気） ・親子収穫イベントなど ・環境にやさしい街のため実現のための補助金（LED 照明の補助、中小企業へのエアコン設置補助） ・環境チャレンジ（緑のカーテン、フードドライブなどに参加でポイント⇒抽選で景品が当たる） ・農業の PR（めぐみちゃんメニュー）	【ちきゅうのめぐみチャレンジ】 ・環境チャレンジと農業、みどり関係の事業を紐づける。 EX) ポイントがたまれば体験農園割引 10ポイントでめぐみちゃんメニューのお店の食品券 100ポイントでめぐみちゃんと会える 999ポイントで電気自動車プレゼント（先着1名） ⇒PRにもつながるとともに参加を促進する。 ⇒軌道に乗ればアプリ化
	・農地は減少しつつある（相続によるものが多い） ・農業後継者不足 ・体験農園は費用が高い ・環境チャレンジやめぐみちゃんメニューなどの事業をしているがPR不足⇒市民が知らない ・直売所が使いにくい（場所がわかりづらい、汚いところだと買いづらい）	

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	地域活動が活発（担当していると感じる） 団体が活動できる場がある 高齢者がつながるコミュニティがある 公共施設がありその場で活動できる 団体のリーダーが熱心に活動している	＜市民が活躍できる場の提供＞ 参加していない若者を取り込む→高齢者から若者まで多様なつながりが生まれる ！！若者を中心として様々な世代とつながる！！ 若者がかがやくまち 例：大学と連携し活動に参加してもらおう（若者の参加を促す） 役割を細分化してそれぞれの世代が活躍できるように 既存の事業に関われるように メリット・付加価値を示して経験の場を提供する（若者が活躍できる場を増やす）
	地域活動への理解が少ない（知っている人が少ない） 団体同士のつながりがない 若者のつながり、コミュニティがない→オンライン活動ができればよい 若者と高齢者のつながりが少ない 活動場所の確保ができない 自治会に入会しない人が多い（メリットがわからない） つながりがなく情報不足・情報収集の場がない 担い手不足	~~~~~ 関係団体との協力（いろいろな団体に関わる） リーダーに対して支援 リーダーだけに負担がかからないような支援や仕組みづくり 地域でこのようなことができるよというものを登録し資源を活用しやすくする

現状と課題	良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ ・子育てに関する案内（相談がしやすい環境にある） （例：妊婦・子どもの検診・相談に関するパンフレット配布） ・コロナ関係で国の給付金対象外の方への支援を3～4つ実施 ・事業所など子どもを支える側の方々への支援も実施 ・就学援助 ・通学路のパトロール（地域の方の見守り） ・災害時の避難所運営協議会 ・安全な道路設計 （例：学校周辺の歩道に横断防止柵を設置） ・サークルに参加している保護者が専門の先生に相談できる機会 ・たまご面接（保健士、助産士が相談に乗ってくれる）	・市でやっている内容をもっと周知する ・目玉メニューをわかりやすくまとめ、子育ての最初から最後までがわかるものを作る ・0歳～18歳まで必要な情報を教えてくれる専属のコンシェルジュを設ける 例：ZOOMなど家でできる環境に対応する ・分野横断的な連携 ・道が狭いところを活かして、歩行者専用の通路を整備する ・水路の紹介や音で楽しむ工夫をする ・学童に入退館システムを導入する
改善したいところ ・道が狭い ・道がガタガタしている（ベビーカーを利用しづらい） ・歩車分離されていない ・情報がありすぎてどこに行ったらわからない ・年代別の必要な情報がわかるページがない ・簡単に情報を紹介できない（捉え方に相違がある場合がある） 例：障害と感じていない方に、障害の案内はできない ・2庁舎制のため、片方でしかできない内容がある	

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	・市の施設で住民向け講座・窓口 例) 社会福祉協議会等で行っている文化芸術についての講座、スポーツ相談窓口 ・【高齢】東大と連携しているフレイル事業 ・【障害】損保グループ3社 障がい者雇用の定着支援 ・行政・地域サービス 例) 生涯現役窓口・シルバー人材センター ケースワーカーが生活相談に特化している（障害福祉課） 外国人サポーター 市報の視覚障害者の方への翻訳サービス	○どういった町が暮らしやすい？ →障がい者のある方：障がい特性について、住民が理解をしてくれる町だれもが自分らしく ⇒自由に選択することができる 誰かに提供されるのではなく「自発的」に行動できる ・能力的に苦手な部分を補填してくれる ⇒誰もが触れあう場の提供 ・地域共生イベント：子ども～障害のある人みんなで参加するイベント ・学校教育 ・障がい者・高齢者の当事者・その家族の負担を軽減する
改善したいところ	・高齢化 ・市の施設で住民向け講座・窓口 ⇒講座のバリエーション・回数等が限られている。 ⇒スポーツ相談窓口以外の窓口があるといい。 例) 文化・芸術 等 ・世代・障害の有無での分離 障がい者の方はみんなで一緒にやりたい！ ⇒実際：障がい者の方と健常者の方が別々で生活している。 理解に乖離がある！！	・人生設計を考えてくれる職員（ライフプランナー） ⇒既存の地域コーディネーター（社会資源を提供するのみ） ⇒生きがいを持てるように… 生きがいを持って暮らしているロールモデルを掲載した媒体があると、市民にとって参考になるのでは？ ・高齢者・障がい者の就労支援

検討テーマ⑧ 『多様な地域資源を活かし、人が集まり、心の豊かさを感じられるまちになるためには』 分野【地域資源・文化・芸術・情報発信】

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	・市内に駅が多い ・歴史と自然がある (例：下野谷遺跡、田無神社、東大農場) ・施設がある (例：こもれびホール、多摩六都科学館) ・イベントがある (例：どんど焼き)	テーマ 『現実と仮想』 ・ターゲットを絞った情報発信 (現実) ・縄文フェスの開催 (例：食、音楽、火起こし、仮装) (仮想) ・バーチャル縄文体験 (例：狩り、発掘)
改善したいところ	・情報発信が足りない ・施設がほしい (例：コンサートができるようなホール等)	

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	・ 本当に住みやすいまちシニア編高齢者第一位 理由：高低差が小さい、平地 ・ 移動手段の充実（バス） はなバス、関東バス、西武バス ・ 子どもの数は増加 理由：土地の値段がちょうどいい（武蔵野市高い、埼玉はちょっと） ・ 普通なところ 例：見逃してたね、西東京 ・ 東大農場の道、通り抜けられて便利 ・ アイスアリーナ、公園、神社がある ・ まちテナ	・ 高齢化が続くので、高齢者が住みたいまち一位を維持したい 高齢者だけでなく、全世代が感じるような 「みんながど真ん中」 ・ 狭い道路に車が多いため、レンタル自転車・キックスケーターを活用する、ステーションを設置する、小回りが利くし、運動にもなる ・ 見逃している場所を周知、若い人にもわかるように ・ 主要な駅から一本だし、娯楽できる場所まで近いよ！とPR ・ 中高生が憩える場所を作る（農場跡地→公共施設→市の中心） ・ 中央線にアクセスしやすくする ・ はなバスが通っていないエリアに本数を増やす ・ 道の駅（物産展）をつくる 理由：PRになる、娯楽になる、全世代が憩える場所、温泉も？
	・ 田無とひばりの間に商業施設が少ない ・ 駅前によって差がある ・ 踏切が多い、本数が多く踏切が空かない、いつまで待たせるの、渋滞からの事故 ・ 道が狭い ・ 私道か公道かわからない ・ 庁用車にナビがない ・ 職員の安全は市民の安全につながる ・ ユニバーサルデザイン、立体交差の歩道橋にエレベーター付き 自転車や車いす、ベビーカーでとおる ・ 医療・福祉のポイント差が気になる 病院が多いように思うけど・・・。徒歩圏で行ける、施設として充実している。個人病院、知られていない。大きい病院は古い、敬遠される。 コロナの関係で注目されている？ 来年の4月から医療費助成は高校生も開始される。 ・ 娯楽施設（イオンなど）、市で遊びたい ・ 移動手段で縦なし ・ 中高生の行く場所がない	

現状と課題		良いところを活かして、課題を解決するためのアイデア
良いところ・残したいところ	・学校では学年ごとに分かれたリーフレットがありわかりやすい ・ホームページの閲覧数のランキングがわかる ・転入者に西東京市の冊子等を渡し、計画を知ってもらう ・市報を読んでいる人が多い（高齢者） ・情報発信ツールが充実している（市報・HP・Twitter） ・市長が「子どもがど真ん中政策」を言っているため、市の中心計画がわかりやすい	Tiktok コドモ大使襲来 ・文章で周知するのが難しいため、SNS 等の動画で説明する流行りの SNS で周知する（tiktok、Instagram、Twitter 等） - いこいーなに計画を説明してもらう - ユーチューバーに発信してもらう - 子ども大使（ほかの世代も可能であれば）に発信してもらう ・Twitter での「いいね！」の数のランキング - 市民の興味のあるジャンルがわかる ・世代ごとに周知方法を変える（市報・SNS） ・計画についてのメリットを知ってもらう ・市報で発信、見る機会をつくる ・市民への周知の手段として、市民説明やパブリックコメントの実施
	改善したいところ ・計画を知らない（特に若者） 職員でも知らないことが多いため市民に聞かれてもわからないことが多い ・Twitter の閲覧数が少ない ・文章で書いてあっても読まない ・自分に関係のある計画がわからない	

7 ワークショップの様子



8 アンケートの結果

ワークショップ参加者に対して、5つの基本理念案を例示し、第3次総合計画の基本理念にふさわしいと思うフレーズを募った。主な意見は以下の通り。

(1) 案1 みんなで築く 人にまちに未来にやさしいまち 西東京
意見なし

(2) 案2 一人ひとりがつながりいきる 深呼吸ができるまち 西東京

- ・グループワークの際にも、西東京市は自然が豊かである、ゆったりとした時間が流れているという意見が出た。都心から少し離れ、市民の方にとって住み心地のよい市であるという意味合いが感じられる。
- ・基本理念は分かりやすくキャッチーなものがいいと考えたとき、一番分かりやすい表現だと思った。「深呼吸」等）市のイメージとして「自然が豊か」がどの世代からも高い評価があることから、人々とのつながりがあり、ほっと一息つけるような安心できるまちになったらいいと思い、その考えに近い基本理念案を選択した。

(3) ともにみらいにつなぐ やさしさといこいのまち 西東京

- ・持続可能な世界を築くために、人やモノ、あらゆる視点から繋ぎ、未来を築いていくことを考えると一番適していると感じた。

- ・少子高齢化社会において持続可能な自治体運営を行っていくうえで、子どもや若い世代「みらいにつなぐ」というイメージは大切だなと思った。また今後は公共私連携がより重要視されていく時代になると考え、「ともに」に込められる様々な主体が、ともに、協働して携えていくという意味にとっても共感を持った。
 - ・「やさしさ」というこれまでの基本理念を踏まえたうえで計画を策定することで、過去から未来へのつながりを意味することができると考えた。また、他人だけでなく、環境への配慮や持続可能性の意味も含まれていることで、近年の社会潮流であるSDGsに関する問題にも力をいれる姿勢を表すことができる。市民が慣れ親しんでいる「いこい」という言葉が入ることで身近に感じることができ、総合計画と西東京市というつながりが濃く感じられると思う。
- (4) 誰にとっても「ちょうどいい」 みんなでつくるまち 西東京
- ・都心に近いこと、緑が多いことが市の強みだと思うので、誰にとっても暮らしやすいまちを目指していくことが表現され、良いと感じた。
 - ・私自身が西東京で働いてもっとも感じる場所なので、より安心して、幅広い世代が暮らしていけるような街にしていきたいと思った。
 - ・5案の中で、最も打ち出したいメッセージが具体的であるという点が、みんながイメージしやすく、意識・行動の変化につながりやすいのではないかと思います。ただ、日常の中で使う「ちょうどいい」の言葉のイメージにはプラスだけでなくマイナスの意味が含まれる感じを受けるため、「ほどよい」などの言葉のほうが良いのではないかと考えました。
- (5) みんなが描く みらいへとつながる のびしろのあるまち 西東京
- ・フレーズを決めるにあたり考えたのは子どもにとってどれが一番分かりやすいかを考えた。今後の10年間で大人へと成長していく小学生後半の子から中学生世代に分かりやすい理念にすることで西東京市を身近に感じてもらい今後の西東京市の発展と一緒に作り上げていけるようになると感じたから。
 - ・前向きで将来に希望が持てるフレーズであるため。
- (6) その他（自由記述）
- ・「未来へと紡ぐまち西東京」。「子供がど真ん中」であり、子どもを大切にすること＝明るい未来へと続いていくということをイメージした。
 - ・「やさしさといこいのまち みらい西東京」。シンプルに案3が良いと思いました。ただ、すこし文字数が多い気がしたため、減らしました。
 - ・「人に寄り添う 人が寄り添う まち」。寄り添う：歩み寄る、共感するという意味があるため、人もまちもお互いに寄り添い合えるということでフレーズとしていいのではと思いました。
 - ・「人を育てるまち、西東京」。超高齢化社会が一層進展することを見込んで、若い世代の取り込みを狙う。現在、既に子育て世帯が多く転入している傾向があるため、それを強調して広報し「子育て世帯が住みやすいまち」のイメージを押し広げる。一方、いくつになっても人は育つ、という考え方もある。子どもだけではなく、年を重ねていってもチャレンジしていく、下の世代を上のが引っぱり上げていこう、という力強く生き生きとしたイメージにつながる。